

記念講演

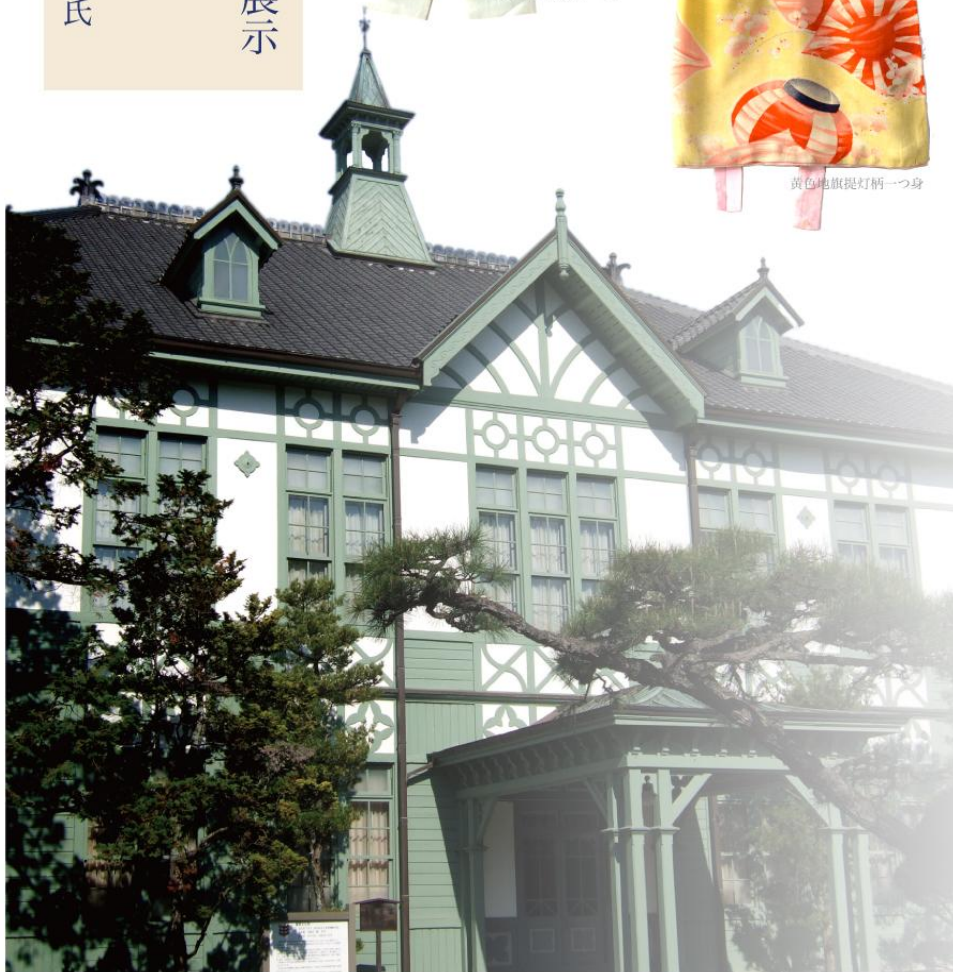
「着物にみる女こどもの戦争」  
10月31日（日）午後2時～3時半 東海大学教授 乾淑子氏

アジア・ジェンダー文化学研究所特別展示  
「着物にみる近代日本の戦争」



緑地画斬人形柄一つ身

黄色地旗提灯柄一つ身



国立大学法人奈良女子大学 旧奈良女子高等師範学校本館《重要文化財》  
**記念館一般公開**  
平成22年10月31日（日）～11月7日（日）  
午前9時～午後4時 《入場無料》

お問い合わせ先  
奈良女子大学総務・企画課  
〒630-8506 奈良市北魚屋東町  
TEL.0742-20-3220  
FAX.0742-20-3205

記念館HP  
<http://koto.nara-wu.ac.jp/kinenkan/>



近鉄奈良駅より北へ徒歩5分  
JR奈良駅より市内循環バス  
近鉄奈良駅前下車  
\*お車での来学はご遠慮ください。

# 「着物にみる近代日本の戦争」

〜乾淑子コレクションより〜

アジア・ジェンダー文化学研究中心 ― 特別展示

ある時、インターネットオークションで、たくさんの小鳩が舞う中で二人の唐子が日の丸を振り、三人の御所人形が見下ろす図柄の着物を見た。そこには「おかあさんの愛情を感じさせる可愛い着物」というキャプションがついていた。それはどうみても日中戦争を思わせ、「中国の侵略ではなく、平和的な進出である」ことを証する図柄であった。（左上図版「唐子御所人形柄一つ身」）

なるほど当時はこれが普通の考え方であったのだから、今の私が驚くほどの大層な図柄ではなかったのだろう。しかし、それまでこのようなものに全く不案内であった私にはこれが一つ身（一才くらいの乳児用）の着物であることが十分に衝撃的であった。

また最近日本では和のパッチワークが流行っていて、珍しい布を見つけては切って作品化する方々が沢山おられることも知っていた。そこで、これは貴重な歴史資料であるから、買って保存しておくと考えた。その後もインターネットで着物を見ていると、次々と戦争柄の着物や端裂が出て来た。一体どれほどの物があり、私はどこまでこれを買うことになるのかと不安になると同時に、放つてはおけないとも考えるようになった。

……中略……近代という時代の様々なこと、神話、博覧会、絵葉書、満州、朝鮮半島、銃後の諸団体、大正ロマン、メディアの興隆など多くのことを知った。結局、戦争柄を通じて私個人は、現代に生きる自分を考えるようになった。それはおそらく歴史研究というものの必然である。歴史は、私達が未来を作る時の指針であろう。

（乾淑子『図説…着物柄にみる戦争』『戦争柄への驚き』より）



唐子御所人形柄一つ身



戦車柄半幅帯



地球儀上の兵士



南洋潜水艦木箱一つ身



軍旗持兵柄袷紗

記念講演

「着物にみる女こどもの戦争」 2010年10月31日（日）午後2時～3時半

東海大学教授 乾 淑子（いぬい よしこ）氏

東海大学札幌校舎国際文化学部教授。研究分野は、民族芸術、絵本研究、染織など多岐にわたる。戦争柄の着物のコレクターでもあり、そのコレクションはNHKのETV特集『戦争を着た時代』（2009年6月5日放映）で紹介され、日本各地の展示会でも大きな反響を呼んでいる。著書に『図説 着物柄にみる戦争』（インパクト出版会）、『戦争のある暮らし』（共著、水声社）がある。

《特別展示についてのお問い合わせ先》

アジア・ジェンダー文化学研究中心 TEL: 0742-20-3611 FAX: 0742-20-3612 E-MAIL: a-gender.c@cc.nara-wu.ac.jp